

第766号 2015年11月22日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570



お元気ですか！ 志村 たかよし です



東京新聞 10月18日の記事

WMF 看板建築・町屋づくり・円正寺… 築地の街並みを「危機遺産」に登録

理由は「再開発で失われる恐れ」

場外市場にある円正寺、瓦屋根の町屋や看板建築など、築地に残る大正から昭和初期の約30の木造建築が、緊急に保存・修復などが必要な「危機遺産」に選ばれました。

「危機遺産」は、国や文化の枠を超えて歴史的建造物を守るうと、65年に設立されたワールド・モノユメント財団(WMF)が隔年で選定します。

これまで135の国・地域の790カ所以上を選び、約1億ドルを助成しています。現在登録されている「危機遺産」は、アフガニスタンのバーミヤン渓谷の文化的景

観と古代遺跡群やシリアのパルミラ遺跡など多数あります。

今回、WMFに申請した一人である工学院大学の後藤治教授(区が中央区近代建築物調査を依頼した中心メンバー)は、「世界の都市は古い街並みを残して魅力を高めている。古い街並みの価値を知って欲しかった」(東京新聞)と話しています。

私は、11月13日の築地等まちづくり及び地域活性化対策特別委員会で、中央区近代建築物調査の報告書の「築地まち歩きコース案」(下図)や「中央区文化財ポーター協会」が「中央区の歴史・観光まち歩き」に取り組んでいることなどを紹介し、築地や月島など地域の歴史と文化を生かしたまちづくりと地域活性化を提唱しました。区は、観光資源として重視するなど前向きな答弁をしました。

近代建築物をめぐる 築地まち歩きコース

築地まち歩きコース案

場外市場と波除通りの変遷を知る

築地4丁目周回コース 約0.6km
昭和期に多く建てられた共同ビル内の路地を抜けながら震災大震災後の本願寺子院と商店の変遷を伝える場外市場をめぐる。また、船があったことを伝える道標や河岸の跡地を経て、波除通りを歩く。



特色ある建築や空間を巡る

築地6〜7丁目周回コース 約0.7km
このコースは、築地6〜7丁目を巡り、特徴的な建築と空間を歩く。途中、路地の先から建物内の路地に通じる特色ある空間も経て、前庭を持つ生垣や、押入れが取り付く旧住宅専用住宅、角地に建つ看板建築、間口が狭い道に建つ町家や近代和風の表紙を巡る。



築地の「近代建築物」

「危機遺産」となった築地の建物の写真を撮ってきました。

みなさんも、きっと見たことがあると思います。

説明文は、「中央区近代建築物（区内に現存している建築物で、概ね昭和40年以前に建設されたもの）に関する調査」の報告書を参考にしました。



築地6丁目12番 昭和7年までに建設された八軒長屋が現存し、路地西側には昭和20年「火保図」に記された五軒長屋が現存しています。いずれも木造3階で1階部分を作業場等にして2、3階を居住部にする併用住居群となっており、長屋の高さや窓の形式は概ね揃っていますが、正面壁の仕上げはモルタル、銅板貼りなどさまざまな仕様で仕上げられ、変化に富んだ町並みとなっています。作業場兼住宅の3階長屋が路地の両側に並び、往時の活気ある築地の雰囲気や今に伝えるとともに、多様な仕上げの長屋群が並び、個性ある路地の景観を生み出しています。



築地6丁目11番 路地に沿って、昭和7年まで建設された戸建ての小規模建築群が現存しています。いずれも木造2階で専用住宅となっており、道幅が狭く、建物が並び、家々の前には植栽が置かれて、下町情緒あふれる町並みとなっています。江戸の地割を継承してできた路地の町並みであり、生活感あふれる町並みとなっています。

看板建築 建物の前面に衝立を置いたような看板を兼ねた外壁を持ち、その壁面があたかもキャンバスであるかのように自由な造形がなされています。「看板建築」は後の研究者がつけたものです。



築地6丁目7番 昭和7年までに建設された戸建ての小規模建築群。軒の高さや窓の形式は概ね揃っていますが、正面壁の仕上げはモルタル、下見板貼りなど様々な仕様で仕上げられ、屋根は切妻平入また寄棟屋根の町家形式の建物が並ぶ町並み。